

# NEWSLETTER NO.10

## JPFアフガニスタン人道支援プログラム2016「ナンガハル州ベスード郡・サークロード郡の女子校における就学率及び安全性向上事業」終了

本事業は、ナンガハル州ベスード郡とサークロード郡の女子校15校の就学率向上を目指して、教育の質、学校の安全性、子供への教育の大切さに対する認識の改善を目指して、昨年3月からスタートし先月末に終了しました。

対象地域は自然災害の被害が深刻で、女子の就学率が低く、教員の能力強化機会の不足という問題を抱えているため、女子校15校および周辺地域において、教育、防災・減災活動、住民向けの女子教育の意識向上セッションを実施しました。

まず、教育の質改善について、教師の指導力・教材の不足といった教育の質の悪さから、女子を通学させない家庭もあるため、教授法研修、マスター教師を育成する研修、マスター教師による他教員のフォローアップ、コーチ・メンタリング、参加型教授法を使つての生徒の社会学習を促すシビックキャンプを実行しました。

次に、学校の安全性について両親が不安に思う気持ちも女子の就学を妨げる要因となつていた為、学校と地域における防災・減災に取り組む活動を企画しました。具体的には、学校災害管理委員会の設立、当委員に対する防災・減災研修、教師・生徒・PTCに対する防災・減災セッションを実施しました。

更に国家災害管理庁(ANDMA)との連携も必要な為、ベスード・サークロード郡の災害管理担当に対して災害リスク軽減研修も行いました。研修の中で、各郡が標準作業手順書(SOP)・緊急時対応計画(CP)を策定し、将来の災害に備える機会の提供をしたのも特徴の1つです。

実をいうと、私がCWSの一員になってはじめて提出した月報がこの事業の9月報告でした。現地パートナーと事業の進捗を交わし合う中で、国内からサポートするオフィサーとして学んだことがあります。それは、予算をいかに有効に役立てるかについてです。本事業は政府からの支援金を助成金としているわけですが、私たち一般の人たちの大切な税金を予算に沿ってできるだけ活用してもらうためには何ができるのかということです。

JPF事務局の方、前任者、そして日々業務を助けてもらっているメンバーNGOの方から、現地と密に連携をとりあつて費用の配分を調整していくことについて教わりました。対象女子校における防災・減災教育は、まだまだ新しい取り組みで、生徒参加型教育の視覚補助ツールとして、バナー・ポスター・副読本などは有効な手段として作成しましたが、予算に余裕ができたため、加えて黒板を購入したい、そんな相談を現地パートナースタッフから受けました。彼女たちは情報共有に非常に協力的・かつ迅速で、現地チームとのコミュニケーションが活発になる機会の1つとなったことをたいへんありがたく思っています。また、就学率の順調な伸びを受け、黒板の導入によって対象校の教育の質改善にも効果が期待できそうです。最終報告のサマリーは当団体のホームページにてのちほど公開予定です(文：阪口佳恵)



マスター教師養成セッション風景



学校防災委員会による避難経路図作成風景



対象校でみかける黒板…



防災・減災クラスで新しい黒板を使用！



子供の教育を受ける権利についての意識向上セッション

## 防災イノベーターズフォーラムを 開催します！

来る3月12日、仙台市主催で開催される「仙台防災未来フォーラム」の関連イベントとして【「防災Innovator's Forum 2017 in Sendai」 - 市民のアイデアから生まれる防災イノベーション -】を開催する運びとなりました。CWS Japanが共同事務局を務める防災・減災日本CSOネットワーク（JCC-DRR）やジャパンプラットフォーム（JPF）では2016年に開催したHumanitarian Innovation Forumを始め、様々なセクターが共感を持って問題解決を行うイノベーションフォーラムを開催して参りました。今年は「市民の力」に着目し、仙台防災未来フォーラムの関連イベントとして、「市民のアイデアによる新しい防災イノベーション」というコンセプトを中心に展開します。具体的には以下のテーマ設定のもと、パネルやワークショップを通じて理解を深め、今後のアイデアを導き出すことを目指します。

- テーマ1：イノベーションのニーズを効果的に吸い上げるためには？特に市民の視点を大事にしてみる。
- テーマ2：ニーズをシーズ（技術・リソース・オーソリティ）に結び付ける際に必要となるコーディネーションの役割。
- テーマ3：企業や大学等の技術やリソースを現場の課題により効果的に結び付けるアプローチとは？

## JPFアフガニスタン帰還難民緊急支援 プログラム2017 に申請します

皆さんに左の写真で身を寄せ合うひとつの家族のストーリーを紹介したいと思います。2016年末、パキスタンからのアフガニスタンへの帰還民は約62万人に達しました。彼らも同年の9月に送還され、Gamberiキャンプに暮らしていました。

是非皆さまのご参加をお待ちしております。詳細は以下をご覧ください：

<http://www.cwsjapan.org/wp-content/uploads/2017/02/防災イノベーターズフォーラム案内FINAL.pdf>

（文：小美野 剛）



市民のアイデアから生まれる防災・減災のイノベーション

**3月12日 Sun. 10:00 - 16:00 途中参加可**  
**仙台国際センター 展示棟 参加費 無料**  
仙台市青葉区青葉山 地下鉄赤松線 国際センター駅徒歩1分 「仙台防災未来フォーラム」連携イベント

参加申込（申込優先、但し当日参加も可）：<https://goo.gl/forms/14vjJOSLiqwIooV1t2>

共催 防災・減災日本CSOネットワーク、ジャパン・プラットフォーム  
ADRRN 東京イノベーションハブ、More Impact

協力 国際協力NGOセンター、仙台YMCA、日本YMCA 同盟  
後援 仙台市、宮城県

DRR

市民/NGO・企業・大学・行政が協力し、「これまでには解決できなかった」防災・減災に関する身近な課題に対してイノベーションで解決する取り組みです

防災・減災の未解決課題に対し、イノベーションを通じて解決することはできないか。  
防災・減災日本CSOネットワーク（JCC-DRR）、ジャパン・プラットフォーム（JPF）は2016年3月のHumanitarian Innovation Forum（仙台）をはじめ、様々なセクターが「共感」を持って問題解決のためのイノベーションを起すためのプロジェクトを推進してきました。  
今回は「市民の力」にフォーカスし、市民のアイデアによる新しい防災イノベーションを考えるためのフォーラムを開催します。

- 市民の視点から、未解決の課題を効果的に吸い上げるには？
- セクターを越え、課題とソリューションを適切に結びつけるコーディネーションとは？

パネルディスカッションやワークショップを通じ、全ての参加者が協力して、未来のための良いアイデアと具体的なアクションプランを導き出すことを目指します。



ある12月の晩、彼らのシェルターで火災が起き、わずかな所持品（日用品、所持金404USD相当）も灰となってしまいました。必死に求めた助けが到着したときには、彼ら夫婦は命がけで守った子どもたちと一緒に呆然と取り残されていました。

Gamberiキャンプは次々と送還される帰還民のためにつくられた比較的新しいキャンプで砂漠地域に位置しており、もともと隣人よりほかに救助の体制は整っていません。凍てつく寒さの中、キャンプの住民は衣服や食料、毛布などを彼らのためにかきあつめたのです。

## 株式会社テレカルト様とのパートナーシップ発足！

この度、株式会社テレカルト様（神奈川県川崎市：<http://www.telecarte.co.jp/>）よりCWS JapanとのパートナーシップCSR活動のお申し出を頂きました。図書カード・Quoカード・ICカード等を発行されているご本業を活かし、CWS Japanの災害人道支援・防災活動等への貢献が付いたカードをラインアップに加えて頂き、

この物語は、私たちのアフガニスタンパートナー団体、Community World Service Asia Afghanistanから共有されたものです。私たちCWS Japan も今日存在するたくさんの支援団体の皆さんと同じ志をもって、ナンガルハール州、ラグマン州の8地域で、寝具の提供及びキャッシュ配布の事業に申請中です。

（文：阪口佳恵）

ご購入頂いた方々が国内外の支援に参加出来るといったサービスです。もし皆さまの会社がカードの新規発行を考えておられましたら、是非ご活用頂けますと大変嬉しく存じます。（文：小美野剛）

### 「CWS」寄付金付き “QUOカード” “図書カードNEXT”

当社へ、オリジナルデザイン及びイージーメイドデザイン印刷「QUOカード」・「図書カードNEXT」（図書カード含む）を御依頼のお客様で、「CWS JAPAN」の活動主旨にご賛同頂けましたら、「CWS JAPAN」のロゴ入りデザインで印刷を行うことが出来ます。当社からカード1枚あたり10円を「CWS JAPAN」経由で各支援活動に寄付させていただきます。皆様の「社会貢献」活動の一助となればと考えております。ぜひ、ご活用下さい。

